

# 医学生アドバンスコース(4週間:診療参加型)実習プログラム

## JA 広島総合病院消化器内科

### 【JA 広島総合病院消化器内科の紹介】

消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたる。当科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっている。また、平成 25 年 10 月開設された内視鏡センターでは、診療内容のさらなる充実した体制となっている。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器の充実、安楽な内視鏡検査処置を目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置などを行っている。消化管の分野では、早期癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)も増加している。下部消化管内視鏡でも完全切除が見込める内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を多数の症例で実践している。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として認知されている。

肝臓領域ではウイルス性肝炎に対してのインターフェロンや核酸アナログ製剤など最新の治療など、ガイドラインに沿った診療を行っている。非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)に対しても積極的に診療しており、全国に先駆けて「NASH 脂肪肝専門外来」を平成 26 年 7 月に立ち上げた。肝臓癌に対しても、すべての治療法が選択できる体制である。

膵・胆道領域では、十二指腸内視鏡を使つての診断(ERCP)や各種治療(EST や ERBD)などに加え、超音波内視鏡を使った細胞診検査(EUS-FNAB)も活発におこなっている。膵癌・胆道癌の患者さんやご家族に対しての「膵がん胆道がん教室」は全国から注目され高い評価を受けている。

当科はこれらの診療実績が認められ、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本胆道学会認定施設、PEG 在宅医療研究会認定施設管理施設の指定を受けている。

地域のかかりつけの先生との連携を充実させ患者さんを中心に地域で診療していくという理念を実現するために、RIGID Net(地域相互消化器医師ネットワーク)という講演会や、西部地区がん診療オープンカンファレンスなどを定期的で開催している。

学生時代に消化器内科の魅力を認識できる貴重な機会となることを期待している。

### 【一般目標】

- 1)医師としての責任感、態度、専門知識と技術を学ぶ。
- 2)基本的診療技術手技とコミュニケーション技能を学び、患者や家族との良好な対人関係を築き診療が行われるようになることを目指す。
- 3)消化器内科の領域のみならず、初期救急対応や病態の理解や診断や治療への診療の流れを

理解し医師としての基礎的事項を身につけることを目指す。

- 4) 消化器内科で取り扱う内視鏡検査処置や腹部超音波検査処置の目的や具体的内容を理解する。
- 5) 担当患者について病態の理解はもとより、実際の診断治療といった医療内容を理解する。

## 【行動目標】

- 1) 患者や家族との良好な人間関係の構築
- 2) 患者の訴えに対して適切に対応し適切な問診や身体的診察を行い諸検査計画を立案し、それから適切に診断し治療計画を立てることができる。
- 3) 上部および消化管内視鏡による検査や処置、腹部超音波装置による検査や処置等の概要、目的、危険性を理解説明ができ、結果を適切に解釈できる。
- 4) 上部消化管内視鏡検査用スコープの使用法の把握する。
- 5) 上部消化管における鑑別疾患の把握する。
- 6) 内視鏡下止血術の適切な選択を理解できる。
- 7) 大腸疾患の鑑別疾患の把握する。
- 8) 胆膵内視鏡検査と処置の目的や病態の理解できる。
- 9) 腹部超音波検査装置の使用法の把握する。
- 10) 肝胆膵における鑑別疾患の把握する。
- 11) 腹部超音波検査の円滑な実施できる。
- 12) 閉塞性黄疸に対する経皮経肝処置を理解する。
- 13) ウィルス性肝疾患の病態と治療ガイドラインを理解する。
- 14) 肝硬変の病態の理解と対処法を理解する。
- 15) 消化管や肝胆膵の癌の病態を理解し適切に治療方針を言及できる。
- 16) 「緩和ケアチーム回診」への参加や「膵癌・胆道癌教室」への参加を通して、癌患者や家族への対応を理解し、その心情をくみ取れるようになる。
- 17) 医療安全の重要性と必要性を理解し、医師としての責任感と自覚を確認確立する。
- 18) 当科が関連する各種のカンファレンスや研究会に参加し、一部カンファレンスで患者のプレゼンテーションを適切に行うことができる。
- 19) 患者に関連した事項についての指導医と討論したり、指導医からの講義を理解し討論することができる。
- 20) 各職種の専門性を尊重した上でチーム医療の重要性を理解し、自らもその中でチームの一員として参加できる。

## 【注意事項】

- 1)診療には汚染の可能性もあり、スクラブあるいは予防衣を着用し、ネームプレートをつけ実習の進み具合を示すシールを貼っていくこと。
- 2)患者、家族、病院のスタッフに接する際にはあいさつや言葉使いなど社会人としての礼節を保つこと。
- 3)医療従事者として、見聞きした事項の守秘義務、個人情報の管理には十分に留意し、プライバシーの保護を厳守すること。
- 4)欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。

## 【実習の内容】

- 1)オリエンテーションについて:初日に内視鏡センターでスタッフ紹介への紹介と自己紹介をした後、病棟での紹介、担当患者の割り当て等、実習のオリエンテーションを行う。
- 2)実習内容を実習ノート(ポートフォリオ)へ毎日記入し、当日夕(あるいは翌朝)に、指定指導医へ提出しコメントをもらい承認サインをもらうこと(指導医承認)。
- 3)屋根瓦式指導体制について:各分野の当日の指定指導医から連日指導を受けるが、多くの場合は初期研修医1年、2年と行動を共にする。午前の実習は、基本的に上部消化管内視鏡検査と腹部超音波検査について内視鏡センターで検査担当医師から指導を受ける。午後は、原則的にその日の指定指導医から指導を受ける。この指導には各種検査の実地指導や疾患などの講義(熱血教室)が含まれる。なお、急患対応時は初期研修医と共に行動する。初期研修医が上級指導医の指示を仰ぎ診療するので実地医療を直接見学し学ぶ。
- 4)電子カルテは担当患者等の指定患者については閲覧が可能であるが、指定外の患者については閲覧できない。必要時は指導医と共に閲覧すること。電子カルテへの記載はできない。学生紙カルテに、連日実習内容を記載すること。これは主治医として実際の診療カルテを書いているつもりで正しい書式で記載すること。
- 5)病棟での回診について:必ず患者主治医と共に面接すること。初回の患者面接時には主治医と共に「学生実習として診療させていただきたい」との旨をお願いし了解いただくこと。常に患者さんへは感謝の気持ちを持ち、無責任な言動は厳に慎むこと。
- 6)月曜朝の症例カンファレンス、水曜朝の CancerBoard、水曜午後の勉強会、消化器内科懇話会へは必ず参加すること。その他に有用な地域の研究会などへの参加を促すこともある。症例カンファレンスでは、患者主治医の指導を受けプレゼンテーションを行うこと。
- 7)4週間の実習中、月曜午後のリスクマネージャー会議へ2回参加し医療安全を学ぶこと。
- 8)水曜午後「膵癌胆道癌教室」へ2回、緩和ケアチーム回診に2回参加し、癌患者の立場を学ぶこと。
- 9)内視鏡センターでの具体的実習内容や日々指定指導医等詳細は初日オリエンテーションで説明する。

## 【実習スケジュール】

	月	火	水	木	金
朝	症例カンファ 病棟回診	病棟回診	CancerBoaed 病棟回診	病棟回診	病棟回診
午前	内視鏡センター	内視鏡センター	内視鏡センター	内視鏡センター	内視鏡センター
午後	内視鏡センター RM 会議(2/M) 病棟回診	内視鏡センター 病棟回診	教室/緩和 内視鏡センター 病棟回診	内視鏡センター 病棟回診	内視鏡センター 病棟回診
夕	指導医承認	指導医承認	水曜勉強会 指導医承認	指導医承認	指導医承認 総括評価 懇話会(1/M)

内視鏡センター:内視鏡センターにおける各種検査研修

RM 会議:リスクマネージャー会議、教室:膵癌胆道癌教室、緩和:緩和ケア回診

## 【実習の評価】

20 項目の行動目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。

- ①指導者(医師・看護師・技術職技師)による、医療者としての行動・態度の評価(18 点)
- ②ベッドサイドでの患者・家族とのコミュニケーションの状況(8 点)
- ③カンファレンスでのプレゼンテーション内容(15 点)
- ④学生紙カルテの内容の評価(12 点)
- ⑤ポートフォリオの内容の評価(18 点)
- ⑥当科領域に関する知識・理解度(18 点)
- ⑦チーム医療の理解度(9 点)

以上の 7 項目について採点して総合評価(100 点満点)を行う。

## 【消化器内科の医師一覧】

「○氏名:役職:(専門領域) 資格」で記載

- 徳毛 宏則(Hironori Tokumo):副院長 消化器内科主任部長 内視鏡センター長 医療安全管理室長:(肝・胆道疾患、内視鏡診断治療、超音波下処置、NASH、胃瘻関連手技)  
広島大学医学部臨床教授、日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医、日本胆道学会認定指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
- 小松 弘尚(Hironao Komatsu):内視鏡科主任部長 緩和ケア科主任部長 消化器内科部長:  
(上部下部消化管疾患、内視鏡診断治療、消化器癌治療、緩和ケア)

広島大学医学部臨床教授、日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本未病システム学会評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○相坂 康之 (Yasuyuki Aisaka) : 肝臓内科主任部長 消化器内科部長 : (肝疾患全般、肝臓がん治療、ウイルス性肝炎の治療)

日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、広島県肝疾患診療支援ネットワーク専門医療機関専門医

○兵庫 秀幸 (Hideyuki Hyogo) : 肝臓内科主任部長 (代謝領域担当) 消化器内科部長 : (肝臓疾患、肥満、脂質異常症、脂肪肝・脂肪肝炎 (NASH/NAFLD)、糖尿病、高血圧等の生活習慣病の統合的治療)

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、本消化器内視鏡学会専門医

○藤本 佳史 (Yoshifumi Fujimoto) : 膵・胆道内科主任部長 消化器内科部長 : (膵臓胆道疾患の内視鏡診断治療、膵臓胆道癌の化学療法)

日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会・専門医・指導医、日本胆道学会認定指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○古土井 明 (Akira Furudoi) : 食道・胃腸内科主任部長 消化器内科部長 : (上部下部消化管疾患、内視鏡診断治療)

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会産業医

○野中 裕広 (Michihiro Nonaka) : 消化器内科部長 : (肝胆膵疾患、NASH、内視鏡的診断治療、超音波診断、超音波下処置)

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○末廣 洋介 (Yosuke Suehiro) : 医員 : (消化器内科疾患全般)

日本内科学会認定内科医

○隅岡 昭彦 (Akihiko Sumioka) : 医員 : (消化器内科疾患全般)

○村田 愛 (Ai Murata) : 医員 : (消化器内科疾患全般)